

特集

コミュニティバスを楽しもう

みんなで支える公共交通プロジェクト

多くの人が利用する公共施設、病院、駅、公園などをつないで走る神栖市コミュニティバスをご存じですか？今回は利用者の声や運行を支える人の声を通して、コミュニティバスの魅力や便利な利用法などを紹介します。



息栖社社のバス停に到着

現在4路線が運行中

皆さんは最近、いつバスに乗りましたか？一口にバスと言っても、路線バス、高速バス、観光バス、貸切バス、スクールバスなどさまざまな種類があります。今回ご紹介するのは、神栖市コミュニティバス。これは、移動手段に乏しい高齢者や高校生などを中心に、生活の足・通学の足として便利に利用してもらおうと、関東鉄道(株)と神栖市が協議を重ねて実現したプロジェクトです。現在運行されているのは、「平泉閣下」小見川駅「息栖神社」ふれあいセンター「湯楽々」鹿島神宮駅「小見川駅」神栖済生会病院「下総橋駅」の4路線。バス停は延べ148カ所あり、市内の路線バス空白地域ができるだけ少なくなるよう配置されています。



マイカーでの移動に慣れていないと、時刻表を調べて近くのバス停まで行って乗車するのは、ちょっと面倒に感じるかもしれません。でも「コミュニティバスがあつて助かる」「今後もずっと運行してほしい」という声がたくさんあるのも事実。そこで

まず、「ここが便利！」という3つの魅力に迫ります。

魅力その1 通学に便利！

コミュニティバスは市内を走るだけでなく、鹿嶋市や千葉県香取市までのルートも設定されているので、通学や通勤にも便利。特に、小見川駅や下総橋駅を利用して通学する高校生には、朝夕の乗り継ぎが考慮された時間帯に運行されているため、好評です。その便利さや乗り心地について、千葉県銚子市立銚子高校に通う坂野佑樹さんに聞きました。



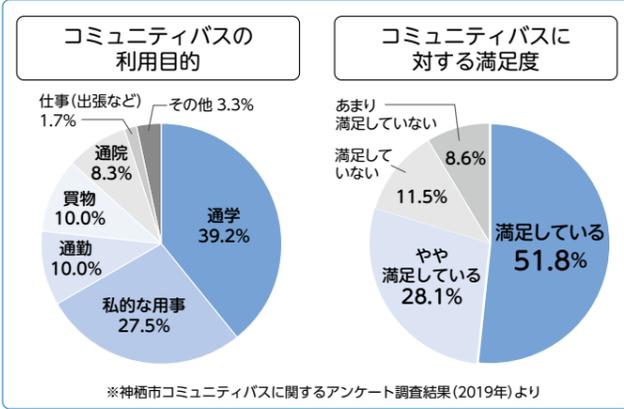
坂野さん

「自宅近くのバス停と下総橋駅の間を利用していただきます。特に部活動で学校からの帰宅が遅くなった時も、夕方のバスは2便あるのでとてもありがたいです。バスは安全運転で乗り心地もよく、部活動の疲れも相まって、何度か寝過ごしたことも(笑)。もしコミュニティバスがなければ自転車を使っていたと思います。バスの方が安全で便利なので、なくなったら困ります。コミュニティバスなら運賃が200円とお得なのもうれしい点です」

ラッピングバスのいろいろな装備



①運転席には計器がいっぱい ②交通系ICカードを利用できる ③座席を折りたたむと車いすを固定するスペースができる ④ベビーカーを固定するベルトを設置 ⑤窓が大きく明るい車内 ⑥車いすで乗り降りできるようスロープを完備 ⑦優先席はデザインで表示



「スポーツ合宿のまち」「ピーマン日本一のまち」を宣伝するラッピングバス ※通常の路線バスと同様の車両で運行している場合もあります